

## スペシャリストの素顔

医療現場ではさまざまな職種の職員が働いています。その中から、スペシャリストとして視能訓練士をご紹介します。

### ■視能訓練士（ORT）



大阪医療センター  
神野倫子 さん  
視能訓練士（ORT）

視能訓練士法に基づく国家資格で、眼科領域の専門家。医師の指示のもと、視力・視野・色覚・眼圧・瞳孔・涙液などの視能検査を行い、斜視や弱視の矯正や訓練にも携わる。また、眼鏡やコンタクトレンズの矯正も行う。

### 患者さんの特徴と視能訓練士の役割は？

大阪医療センターの眼科は規模も大きく、緑内障で有名な医師もいるので、患者さんの大半は他の医療機関からの紹介です。このため、「目の調子が気になるので診てほしい」といった方

ではなく、もともと他の医療機関で診察を受けて病名がはっきりしている方や、他の病気との合併症などにより

視力にも悪影響が出て、眼の手術を前提に来院される方などが大半です。

私たち視能訓練士が視力や眼圧などの基礎検査をはじめ、それぞれの病気・症状に応じた他の検査も行います。検査とは、患者さんの状態を正確に把握し、医師が診療を行いやすいよう基礎資料をつくることであり、結果的に患者さんの診療時間を短縮することにもつながります。



## 常に心掛けていることは？

最初に患者さんと接するのは私たちになります。人間は情報の約80%を視力から得ているともいわれています。視力は五感の中でも特に重要な感覚といえ、特に手術前提の方など、患者さんが抱える不安はとてつもなく大きいです。こうした不安を少しでも和らげることも、私たちの大切な仕事だと考えています。専門性の高いスペシャリストという難しいことではなく、笑顔を絶やさず、何気ないお話をすることで少しでも和んでいただけるように心がけています。そこは関西人ですし（笑）。



ただ、眼科の世界でも凄まじいスピードでの技術進歩がみられます。検査機器にしても視能訓練士となった当初とは雲泥の差で、私たちも進歩に対応した勉強が欠かせません。

## どんな時にやりがいを感じますか？

実は、当センターには視能訓練学院が併設されていました。近年では大学や専門学校でも視能訓練士養成コースが設置されることが多くなり、残念ながら2009年に閉校となりましたが、34年間の卒業生は1,100名以上にも上ります。私もそのひとりで、20年も同じ職場にいると幼いころから知っている患者さんもいます。

たとえば、複視（すべて二重に見える）の患者さんでは異常の原因にもよりますが、プリズム眼鏡を使って矯正し、それまでずっと二重に見えていた世界がひとつになったときの笑顔と感謝の言葉はぐっときましたね。やはり、患者さんの症状が少しでも改善したときのお礼の言葉は、私たちにとって何よりの励みになっています。

これからも患者さん第一の視点で接していきたいですね。